

会報

74号



函館の歴史的風土を守る会会報
No.74 H15. 9. 6
発行所 函館の歴史的風土を守る会
事務局 函館市五稜郭町43-9
五稜郭タワー株式会社内
電話(0138) 5 1 - 4 7 8 5
印刷所 (有)三和印刷 電話 45-0845

「第25回定期総会」終わる

◆定期総会報告

平成15年度の定期総会が6月14日、30余名が出席し、五島軒駅前店で開催された。

開会にあたり、昨年度逝去された宇野均顧問、田尻聰子副会長を偲び、黙祷をし、議長に古川満寿子さんを選出し、議事を進めた。会長挨拶、石井事務局長代行の経過報告、吉村副会長の会計報告があり、承認後、引き続き新年度の事業計画案と予算案が提案され、原案通り議決承認された。

昨年度は開港5都市景観会議函館大会への参加が主行事で、大きな問題も無く、新年度も、第6回全国路面電車サミット函館大会の後援の他に大きな課題も無い為か質疑応答も少なく閉会した。

しかし、懸案となっている会員の拡大、特に若年層会員の参加、チャリティ・パーティ以外の行事の検討等の懸案問題が残されていることを痛感した。それには、会員間の意見交換、関係団体との交流による話し合い等を通して、今後どのように、故郷の風土を守って行くべきか？ 新しい視点で取り組み、方向付けをすることが、歴風会の発展に尽力下された宇野、田尻両先輩への本当の手向けであると考えた。

運営委員 太田 孝雄

長の経営する五島軒駅前店（北洋ビル7階）で開催されました。

落合治彦副会長の開会宣言、清野恒夫会長挨拶、古川議長の進行によって議事が進められました。

①平成14年度一般経過報告を石井事務局長代行、②同年度決算報告を佐々木正子会計委員代行吉村副会長、③チャリティ・パーティ収支決算報告、対島運営委員、④監査報告（佐藤利男、加賀谷京子代理石井事務局長代行）がなされ、承認可決しました。引き続き平成15年度事業計画案、同予算案の提案があり、前年同様の役員の承認がありました。その後、落合副会長による閉会宣言で総会は終了しました。役員の皆さんご苦労様です。

総会に先立っての講演会では、昨年度歴風文化賞個人賞に輝いた瀬川瓦工業代表取締役、瀬川福年氏を迎え、会長との対談形式で進められました。初めての試みでしたが、わかりやすく、苦労話も聞かされて、技術的にもよい勉強になりました。なお二代目の現社長夫妻がイニシャルコストやライニングコストについて、吉村副会長の災害との関係の補足説明など、建築屋としては非常に面白く聞けました。

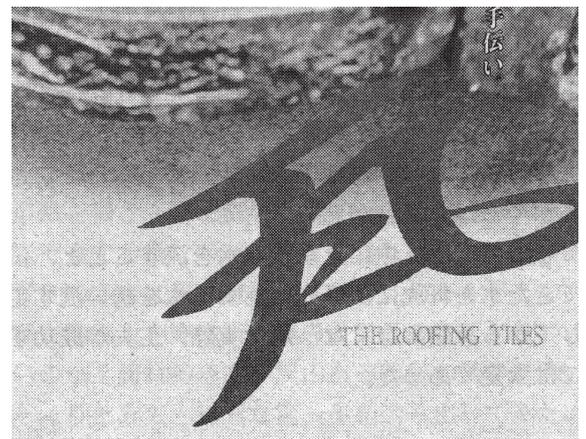
なお終了後同会場で、若山副会長の多大なご協力によって懇親会があり総会行事が無事終了しました。

運営委員 吉田 清美

◆平成15年度函館の歴史的風土を守る会定期総会に出席して

私は歴風会に入会して日が浅く、入会は平成12年2月、吉村富士夫副会長に誘われてのことです。4年目ですが本会の事業内容や活動等が最近になってようやく解ってきたところです。毎月の運営委員会や各種実行委員会には、地方（知内）から委員会の皆さんの顔が観たくて欠かさず出席していますが、定年退職後の生き方のひとつになっている此の頃です。

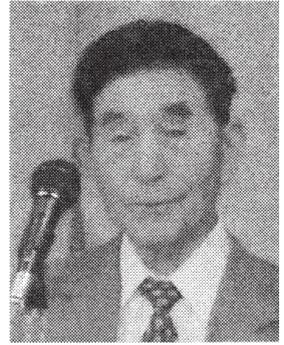
さて、定期総会は何ヶ月も前から検討された上、6月14日（土）午後5時30分より本会副会長の五島軒社



定期総会・講演

瓦職人 瀬川福年氏

『瓦』を語る



瀬川福年氏は14年度歴風文化賞個人賞を受賞され、平成13年には社団法人全国建築士会連合会より「伝統的技能者表彰」を受けた。瀬川瓦工業代表取締役社長である。年齢は79歳、現在も屋根にのぼる現役職人である。忙しい中を快く出席され、非常に意義深い話しをして頂いた。参加した会員は一樣に、興味深く心に残る話しに至福のときを過ごした。紙上を借りて瀬川さんに厚く御礼申し上げます。

『瓦』との出会い

瀬川さんは大正12年根崎に出生、16歳で東洋瓦工業にコンクリート職人として入社、マルシンプレス瓦工業に勤め、昭和60年、60歳で瀬川工業をたちあげた。小学校の時の遊びはどろんこ遊びが大好きで、卒業と同時に東洋コンクリートに入った。昭和9年の函館大火の時には山形から瓦がきた。昭和39年頃まで本州からきた瓦は手づくり、セメント瓦であった。セメント瓦は一枚4キロ、一貫瓦といい、一人の職人で大体350枚つくるのがあたりまえであった。瓦づくりには上からドンドンと詰めて圧縮していくと瓦は強くなる。最初の頃一番につくった古川町の古い番屋（鯛番屋）があり、その後、道路の下に並んで建てていった。

『瓦』は職人の葺き方による 私の工夫

瓦の屋根は水が中に入るとか粉雪が入るとか、すもりになるとか言われているが、きちんと固くついていると大丈夫です。家屋だけでなく神社佛閣ではなおのこと、見苦しいだけでなく、きちんとつくとグラーとくことさえある。

職人によってはそれぞれクセがあるものだが、これは悪口ではなく、内地の人にやってもらったこともあるがやっぱり具合が悪い。

私の特徴は、中にたまった水を流すことと、伝わってきた水を軒先に、軒先にたまる水を誘い流す工夫をしてから凍結しなくなった。実際、工夫が成功するまでは大変であった。

さまざまの工夫

いろいろな失敗談があるとさわやかに披露してくれる。

いま、北海道ではセメント瓦をつくっているのは私のところ一軒だけである。

昭和30年位までは焼き瓦といって600℃位の温度で焼き、今は1,100℃まで出来る、陶器瓦と名前がつけられ、固くて綺麗である。一時期、福助瓦といって塗料をかけ、黒びかりした瓦が出廻ったが、出来て2年位経ってから吹きつけるのであまり長持ちしない。

正規に何をすると長持ちするか一生懸命工夫した。値段はトタン屋根に比べてほゞ3倍だが、長持ちする。値段は相談だが――、寿命は100年位はもつ。番屋で100年位もっているという話があり、家屋が先に傷み、瓦は再利用でき、冬暖かく夏は涼しい。雨が降っても、セメントの音はトタンよりやわらかい（あまり言いたくないが）。

瓦葺きの、色、風格、値段、寿命、室内気候などの特徴を経験を通して話しを進めた。会長との対談形式をとったがわかりやすかった。

その後、質疑応答に入り、平成5年まで瓦の屋根の家に住んでいたが、坪当たり300貫だったという土蔵づくりを父親が自慢していた。これは間違いなのか（落合氏）、間違いない（瀬川氏）、阪神大地震では瓦が崩れてという風評があったが、調べてみたら屋根1㎡当り300Kある。陶器瓦は1㎡48K、1枚3K（石田大祐氏補足）、そこで本州の建物は筋違いがないと弱いのことがわかった（瀬川氏）。奥尻地震のUホテルでは瓦が一枚もこわれていなかった。釧路地震でもそうだ。北海道の場合、雪の重み加わる。地震も重みだけではなく、建物に筋違いを入れるようにしなければならない（瀬川氏）。

まさに、重さに耐える、力に耐える力は筋違いが握っていた。瓦はその土地の風土に合わせられる奥深い建材といえる。

（要約は編集子）

近況報告

第6回 全国路面電車サミットIN函館大会について

(開催日 平成15年10月2日～5日)

全国路面電車サミットIN函館大会

実行委員会事務局長 吉村富士夫

全国路面電車サミットは、93年札幌市で商店街イベントの一環として初めて開催され、以後1年おきに広島、岡山、豊橋、熊本と開かれ函館での開催は6回目となる。

催しの性格は、当初はファンの集いの集会的なものであったが、路面電車こそが都市の交通環境改善に重要な役割を果たすという機能が世界的に認知されるに従って、交通面で都市、社会を改善するムーブメントという性格を強めてきた。

過去の催しの骨子は、基本的にファンと事業者の交流会であって、それぞれが円卓で意見交換する「本会

議」と交流パーティーが必要条件である。これに、「まちづくり」、「LRTとは」などの分科会が組み合わされ開かれてきたが、このサミットの目的は、各団体・事業体の活動状況についての情報交換を行うとともに、知恵を出し合い、愛好する路面電車を元気づけ、公共交通機関として振興・発展すると同時に、まちづくりにも役立たせるために同じ仲間と打ち解けた話し合いを深めたいというものである。更には、開催までの期間・開催期間中を通して各種関連事業(イベント)を行い、路面電車の持つ街づくりや都市機能改善に向けての可能性を広く一般にアピールするものである。

西部地区の今を考える 「静けさについて」

副会長 若山 直

西部地域がかつて函館の中心であったのは昭和初期までで、その後の過疎ぶりは著しいものがある。忘れられたこの地域が復活してきたのは観光時代の幕開けとなった1988年の青函博覧会からである。函館区公会堂やハリストス正教会など、明治の建造物が点在する昔の町並みが脚光を浴び、観光の中心地となった。西部地域は今では函館の象徴的存在である。皮肉にも高度経済成長に乗り遅れた結果残ったものが資源となったのだ。この地域はまた観光客が溢れる観光シーズンとオフとの落差、昼間と夜間の人口落差が大きい地域でもある。バブル崩壊後の日本人は事あるごとに「町おこし」と称して一時的な人集めを起爆剤とする傾向があるが、西部の盛衰はこのような方法では問題が解決しないことを教えている。未来の観光のために、静

けさや沈黙という言葉の意味を再発見していきたいものだ。賑やかな祭りは沈黙との対比の中で、華麗な花火は闇の中で、初めて輝きを増す。のべつ幕無し、明るく騒がしいだけの人集めは必ずしも今後の観光の目玉にはならないはずだ。静けさは、寂しさ、侘しさと似て非なるものだ。近年、日本人の観光旅行は集団から少人数に、貸切バスからマイカーや徒歩へ変化しつつある。変化の原因の一つは人々が癒しを求めて観光するようになったことだろう。もしそうなら、従来型の、威勢良く賑やかに迎えるだけでは片手落ちだ。静かに過ごしたい客には構わないことがサービスになる。観光に対する発想の転換、これこそ歴風会の出番ではないだろうか。この視点から西部地区の今後のあり方を再検討していくことを提言したい。

「函館の歴史的風土を守る会」への雑感

運営委員 藤井 信子

この会に入会して3年余り、会の行事や運営委員会にも出席出来るようになった。市内には多くの文化団体もあると聞く。これらを結集し、出来れば行政もその中に入って函館の活性化のために役割を担うようになりたい。市民一人一人が意識をもって家庭や教育の場面での環境づくりがあってこそ、「歴史的」の意味を理解することが出来るであろう。理解が深まるにしたがって街を歩くとき、買物をするとき、函館を歩く歩き方や眼の輝きが違ってくるのではなからうか。

函館はいま眠りに入っている、そこから意識を覚まさないければそのまゝ滅びてしまう。無駄に歴史遺産を

置き去りにし、風化させていくような気がしてならない。そのため、私たちよりも事態を熟知しておられる先輩たちに知らせて頂き、後世に継承していくことをして行きたい気持で一杯である。

40年も前になるが京都の早朝、各家のおかみさんたちが道路を掃き、窓を拭いて観光バスを見送る。それが観光で食する術なのだ。今でも目に残っている。函館のゴミの多さに目を背けたくなる。何かから手をつけて、歴史的風土を守る街並みのところまでたどりつけばよいのか？誇れる遺産が沢山ある函館の街の息遣いをじっくりとみて、確実な第一歩を踏み出してみたい。

運営委員会からのお知らせ

1. 第21回歴風文化賞表彰式、 第26回チャリティーパーティー について

昨年度は会員はじめ市民の皆様300名の参加で盛大に表彰式、パーティーを開催することができました。

今年度の素案が先日行われました運営委員会で決まりましたのでお知らせします。

第21回歴風文化賞表彰式、第26回函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティー (案)

日時 2004年3月19日(金) 午後6時30分より

会場 五島軒本店(末広町4-5)

会費 5,000円

内容 歴風文化賞表彰式

チャリティーパーティー

函館から情報発信

アトラクション(会員の希望)

クイズ

チャリティーオークション

その他

☆歴風文化賞の表彰には会員の皆様の推薦が重要です。

推薦は1件でもかまいませんので、同封の用紙にご意見等も含めて返信してください。

宜しく願いたします。

2. 小学生・中学生による ふるさと写真公募展

第1回 ふるさと写真コンクール

日時がきまりました

→平成16年2月18日から2月25日まで

展示場所は→函館駅JRホール

主催 は→函館の歴史的風土を守る会

共催 は→チンチン電車を走らせよう会

後援は函館市教育委員会・函館市交通局・各新聞社・NHK函館放送局・FMいるか・函館写真協会・函館写真カメラ商連合会

函館に数多く残っている文化遺産、歴史的建造物・

まちなみ風景など、好きな場所で写真を撮り、楽しみながら函館の街を写真におさめましょう。

学習部からのお知らせ

運営委員 千葉 敬

○学習・講演会開催

『激動の時代を生き抜いた函館商人＝四天王』

講師：富沢嘉平衛氏

(元北中学校校長、函館市文化財審議員)

『箱館むかしばなし』他

日時：平成15年9月27日(土) 13時～16時

場所：函館サン・リフレ

多数の皆さんのご来場をお待ちしています。

入手資料

○以下の資料を入手しています。ご覧になりたい方は編集部(52-8646)にご一報下さい。

『北海道の文化』75号 北海道文化財保護協会

平成15年3月28日発行

『文化情報』北海道文化財保護協会、第244、246、247、250、251、252、253、255の各号

『北海道NPO情報 ジェイネット』NPO推進北海道会議北海道NPOサポートセンター、月刊、2003年2月号まで、NPO全国フォーラム2003 北海道会議9.13～14開催案内

『北海道建築鑑賞会通信 きーすとん』27、30、31、32の各号

『豊島ネット通信』50、51、55、56、57の各号

*** 編集後記 ***

74号は平成15年度総会報告が中心です。加えて運営委員の方々の活躍ぶりを添え、れきふう運動の近況を投稿して頂きました。気候不順とはいえ、秋は学びにふさわしいときです。会員のみなさまの心・技・体の一層の充実を念じております。次号には広く原稿を募りたいと思いますので、今からご予定に組み入れて頂ければ、編集部として此の上ないよるこびです。では次号で—

(きよの きみ)